

少子化の中での高校の在り方 「地区別の高校配置の方向性」

1 南部地区

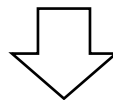
(1) 現状

全日制公立高校	
学校数	10 校（うち分校 1 校）
学校規模 (H30 ベース)	4 学級以上：6 校 3 学級以下：4 校 平均：3.9 学級
学科構成	○普通科が 41%（学級数ベース）を占める。 ○その他は、総合学科と農業、工業、商業、体育、看護系の学科が設置されている。 ○なお、平成 35 年 4 月に柴田農林高校と大河原商業高校を再編し、南部地区職業教育拠点校が開校することで、農業科と商業科の学級数は減少するが、新たに県立高校では初となるデザイン系学科が設置される。
進学者の状況	地区内中学校から地区内全日制公立高校への進学率：73.0%
今後の中学校卒業 業者数の推移	平成 31 年：1,489 人→平成 40 年：1,208 人 10 年間で 281 人減少（18.9%減）
その他	・柴田農林川崎校には、岩沼高等学園川崎キャンパスが併置されている。 ・中学校卒業業者数の規模が同じ大崎地区、石巻地区にある多部制高校がない。

(2) 10 年間の方向性

【ポイント】

- 学科選択の幅は確保されている。
- 3 学級以下の学校が多く、充足率が低い傾向にある。
- 平成 35 年 4 月の柴田農林高校と大河原商業高校の再編により 3 学級が減少するが、中学校卒業業者数の減少を考慮すると、更に定員調整の検討が必要となる。



中学校卒業業者数の減少に対応した定員調整が必要であるが、地域ニーズも踏まえて、様々な役割を担う学校に転換することも視野に再編を検討。

2 中部地区

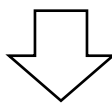
(1) 現状

全日制公立高校	
学校数	29 校（うち仙台市立高校 3 校）
学校規模 (H30 ベース)	5 学級以上：29 校 平均：6.9 学級
学科構成	○普通科が 73%を占める。 ○その他は、総合学科と普通系、職業系の専門学科が多様に設置されている。
進学者の状況	地区内中学校から地区内全日制公立高校への進学率：56.3%
今後の中学校卒業 業者数の推移	平成 31 年：13,885 人→平成 40 年：13,537 人 10 年間で 348 人減少（3.0%減）
その他	—

(2) 10 年間の方向性

【ポイント】

- 県内の約 4 割の高校が所在している。
- 他地区と比較して学校選択，学科選択の幅が広い。
- いずれも 5 学級以上の学校となっており，充足率もほぼ 100%である。
- 中学校卒業業者数は平成 32 年，平成 33 年に大きく落ち込んだ後，回復するが，傾きは小さいが減少傾向である。



充足率は安定しているが，社会的ニーズに対応した学科改編等についても検討。

3 大崎地区

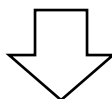
(1) 現状

全日制公立高校	
学校数	11 校
学校規模 (H30 ベース)	4 学級以上：5 校 3 学級以下：6 校 平均：3.9 学級
学科構成	○普通科が 56%を占める。 ○その他は、総合学科と農業、工業、商業、家庭系の専門学科が設置されている。
進学者の状況	地区内中学校から地区内全日制公立高校への進学率：69.8%
今後の中学校卒業 業者数の推移	平成 31 年：1,861 人→平成 40 年：1,614 人 10 年間で 247 人減少 (13.3%減)
その他	—

(2) 10 年間の方向性

【ポイント】

- 地区の半数以上が 3 学級以下で、他地区と比較して学校が小規模化している。
- 学科選択の幅は確保されている。
- 充足率が低い高校が多い。



地区が東西に広く、交通事情や地域特性も異なることから、いくつかのブロックに分けて学校の在り方について検討した上で、再編等の対応が必要。

4 栗原地区

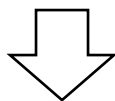
(1) 現状

全日制公立高校	
学校数	4校
学校規模 (H30 ベース)	4学級以上：2校 3学級以下：2校 平均：3.5学級
学科構成	○普通科が50%を占める。 ○その他は、総合学科と商業科が設置されている。
進学者の状況	地区内中学校から地区内全日制公立高校への進学率：68.2%
今後の中学校卒業 業者数の推移	平成31年：544人→平成40年：435人 10年間で109人減少(20.0%減)
その他	全地区で唯一、定時制高校がないが、田尻さくら高校が受け入れ先となっている。

(2) 10年間の方向性

【ポイント】

- 学校数が少ないが、広い市域に分散して所在している。
- 学科選択の幅が限定的である。
- 3学級以下の学校は充足率が低い。



市域が広いことから通学への影響を考慮するとともに、地区の枠を越えて学習環境の充実に配慮した学校の在り方を検討することが必要。

5 登米地区

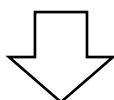
(1) 現状

全日制公立高校	
学校数	3校
学校規模 (H30 ベース)	6学級：2校 3学級：1校 平均：5.0学級
学科構成	○普通科が60%を占める。 ○総合学科はなく，農業，工業，商業，福祉系の専門学科は いずれも登米総合産業高校に設置されている。
進学者の状況	地区内中学校から地区内全日制公立高校への進学率：63.0%
今後の中学校卒業 者数の推移	平成31年：716人→平成40年：600人 10年間で116人減少（16.2%減）
その他	—

(2) 10年間の方向性

【ポイント】

- 全地区で最も学校数が少ない。
- 平成27年度に3校を再編統合し登米総合産業高校を設置したが，充足率が低い。



市域が広いことから通学への影響を考慮するとともに，地区の枠を越えて学習環境の充実に配慮した学校の在り方を検討することが必要。

6 石巻地区

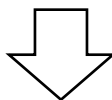
(1) 現状

全日制公立高校	
学校数	8校（うち石巻市立高校1校）
学校規模 (H30 ベース)	4学級以上：8校 平均：5.1学級
学科構成	○普通科が50%を占める。 ○その他は、総合学科と工業、商業、水産系の専門学科が設置されている。
進学者の状況	地区内中学校から地区内全日制公立高校への進学率：80.0%
今後の中学校卒業 業者数の推移	平成31年：1,668人→平成40年：1,390人 10年間で278人減少（16.7%減）
その他	—

(2) 10年間の方向性

【ポイント】

- 中学校卒業業者数の規模が同じ南部地区、大崎地区と比較して学校規模は大きい。
- 旧石巻市に学校が集中している。
- 充足率は年度間で波がある学校がある一方で、毎年定員割れをする高校もある。
- 宅地に関連する復興工事が完了により中学校卒業業者数が変動する可能性がある。



- ・社会的ニーズに対応した学科改編等についても検討。
- ・地域の産業特性等に応じた専門学科等での特徴的な取組の展開を検討。

7 気仙沼・本吉地区

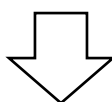
(1) 現状

全日制公立高校	
学校数	4校
学校規模 (H30 ベース)	6学級：1校 3学級：3校 平均：3.8学級
学科構成	○普通科が53%を占める。 ○その他、総合学科や工業、商業、水産系の専門学科が設置されている。
進学者の状況	地区内中学校から地区内全日制公立高校への進学率：80.5%
今後の中学校卒業 業者数の推移	平成31年：637人→平成40年：433人 10年間で204人減少(32.0%減)
その他	南三陸町立の中学校と志津川高校は、県内唯一の連携型中高一貫校である。

(2) 10年間の方向性

【ポイント】

- 平成30年度に気仙沼高校と気仙沼西高校を再編するが、(新)気仙沼高校以外は3学級以下となっている。
- 学校数が少ないが、広い市域に分散して所在している。
- 地区内中学校から地区内全日制高校への進学率が全地区の中で最も高い。



地区の区域が南北に長い地理的条件や公共交通機関の状況から、他地区への通学が困難である地域特性を考慮した学校の在り方を検討。